

放課後等デイサービス自己評価表 ライトブレイン(堀川)令和2年2月実施

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点 |
|-----------------|---|--|----|---------------|-----|---|
| 環境・ 体制 設備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | ○ | | | |
| | ② | 職員の配置数は適切であるか | ○ | | | 児童指導員や保育士、経験者を中心に適切な知識を持った職員を基準より多く配置している |
| | ③ | 事務所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | ○ | | | |
| 業務 改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか | ○ | | | 週1度のミーティングにより課題の抽出と解決策を話し合っている |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | ○ | | | アンケートを参考に実施した児童毎の年間の利用希望の調査により、より快適な事業所利用につながったと考えている。今後もアンケートの意見を柔軟に取り入れたいと考えている |
| | ⑥ | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | | |
| | ⑦ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | ○ | | | 相談員や他施設の職員に積極的に来社してもらい、意見を出してもらっている。 |
| | ⑧ | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | ○ | | | |
| | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | ○ | | | |
| | ⑪ | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | ○ | | | プログラムの担当者を中心にミーティングをおこない、利用者のニーズを満たす立案を心掛けている |
| | ⑫ | 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか | ○ | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|---|---|---|---|
| 適切な支援の提供 | ⑬ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | | 休日や長期休暇は社会経験を積ませるための外出を積極的に行っている |
| | ⑭ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | 毎日の集団でのプログラムに加え、個別の課題プリントなどに取り組んでいる |
| | ⑮ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | ○ | | | |
| | ⑯ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | ○ | | | |
| | ⑰ | 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | ○ | | | 記録や職員個々に感じていることをミーティングで話し合い、情報の共有と改善に向けた取り組みにつなげている |
| | ⑱ | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | ○ | | | |
| | ⑲ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか | ○ | | | 毎日のプログラムによる療育支援、こまめな保護者支援、イベント等による社会経験の積み上げを行っている |
| 関係機関や保護者との連携 | ⑳ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか | ○ | | | |
| | ㉑ | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか | ○ | | | |
| | ㉒ | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | | | ○ | 医療的ケアが必要な児童は在籍していない。 |
| | ㉓ | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | | ○ | | 児童発達支援事業所との情報共有は行っている。 |
| | ㉔ | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | | ○ | | 今後移行するケースが見込まれるため自主的に情報提供するよう努める |
| | ㉕ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | ○ | | | 外部の研修に積極的に参加している |

| | | | | | | |
|------------|-------------------------------------|--|---|---|---------------------|---|
| 携 | ②6 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | | ○ | | 試行錯誤の最中だが、放デイ事業所間での交流の機会は増えている。また年に一度ではあるが14歳の挑戦の受け入れという形で地域の中学生と関わる機会もある |
| | ②7 | (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか | ○ | | | |
| | ②8 | 日ごろから子供の状況を保護者と伝えあい、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか | ○ | | | 支援当日の様子の共有や、気付いたことはこまめに伝えるよう努めており、また保護者からも相談しやすい雰囲気作りを心掛けている |
| | ②9 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | ○ | | | |
| 保護者への説明責任等 | ③0 | 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | ○ | | | |
| | ③1 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | ○ | | | 保護者からの相談はいつでも受け付けており、事業所内で相談を共有することによりより良い助言へと繋げている |
| | ③2 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | ○ | | 父母会はないが、保護者間の交流ができるイベントは今後積極的に企画していきたい |
| | ③3 | 子どもや保護者からの苦情について、対応体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | ○ | | | |
| | ③4 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | ○ | | | 約年3回会報の発行、毎月のプログラム表・イベント表の案内、またSNS等で積極的に活動の様子や予定を発信している。 |
| | ③5 | 個人情報に十分注意しているか | ○ | | | |
| | ③6 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | ○ | | | 絵カードなどを使い支援を行っている。 |
| ③7 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | | | ○ | 今後、そのような機会を設けていきたい。 | |

| | | | | | | |
|---------|----|---|---|--|--|---|
| 非常時等の対応 | ③⑧ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | ○ | | | |
| | ③⑨ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | ○ | | | 半年に一度の訓練を行っている |
| | ④⑩ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切に対応しているか | ○ | | | |
| | ④⑪ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | ○ | | | |
| | ④⑫ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | ○ | | | 医師の意見を保護者を通じてお伝えいただき、おやつや食事などの対応を徹底している |
| | ④⑬ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | ○ | | | |